

山口県病院協会 会報

2018 **4月号** No.59

- 発行日 平成30年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人 岩国みなみ病院

〒740-0034

住 所 岩国市南岩国町2丁目77番23号

電 話 0827-32-4100

F A X 0827-32-4105

U R L : <http://www.iwakuni-minami.or.jp/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4ページ
四県病院協会連絡協議会報告	5ページ
医療経営講習会報告	5ページ
研修会報告	6～7ページ
諸会議報告	8ページ
事務長部会コーナー	8～9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人
岩国みなみ病院
理事長・病院長

野坂 誠士

当院は、村山正毅・前理事長が昭和62年に開設したのが始まりです。その後、肺手術、呼吸器内視鏡診断を中心に、診療・研鑽を積んできた歴史があります。

平成26年8月6日深夜、岩国は時間雨量120mmの豪雨に襲われました(岩国豪雨)。早朝、当直医から携帯が鳴りました。「病院が冠水しています!」。岩国市内至る所で浸水被害、崖崩れ被害が出ているとの事でした。タクシーで何とか病院の近くまでたどり着きました。啞然としました。病院は周辺の県道、スーパー、民家もろとも冠水していました。周囲には軽自動車は何台もプカプカと浮かんでいました。裏の駐車場から院内に入り込み1階に下りてみると、真っ暗闇の中、待合の椅子、内視鏡などあらゆる物が、茶色い水の中に浮かんでいました。この時初めてこれが水害か、まさか自分が当事者になるとは、と何となく冷静に、でもまだ他人事のように思ったのを覚えています。2、3階の病棟は被害はありませんでしたが、入院業務を継続することは困難でした。当院での人的被害はありませんでしたが、岩国豪雨全体では死者が2名出たのです。その後

病院は休床を強いられましたが、平成29年4月10日から病棟を再稼働し入院業務を再開することが出来ました。

今後も呼吸器疾患を中心に診療を継続していく所存ですが、まさしく超高齢化社会。認知症、廃用症候群など避けては通れない状況です。小病院ならではのフットワークで、医療・看護・介護・訪問を、総合診療的に構築していきたいと思えます。

<現状>

1) 概要

開設者 野坂 誠士
住 所 山口県岩国市南岩国町2丁目77番23号
電 話 (0827) 32-4100
E-mail iwakuniminamijika@yahoo.co.jp
U R L <http://www.iwakuni-minami.or.jp/>
病院長 野坂 誠士
診療科 呼吸器外科・消化器外科・外科・
呼吸器内科・消化器内科・放射線科・
麻酔科
病床数 60床（一般病床）
関連施設 訪問看護ステーション つくし

2) 沿革

昭和62年8月 岩国みなみ病院開院（許可病床数30床）
平成4年1月 医療法人 岩国みなみ病院へ改称
平成6年8月 新館増築（許可病床数60床）
平成7年2月 院内託児所開設

平成9年5月 訪問看護ステーション つくし開設
平成26年8月 未曾有の水害により壊滅的被害を受け全病床休床
平成29年4月 全館改修
（許可病床数60床のうち30床再開）

3) 特徴

呼吸器疾患に特化した地域密着型病院です。診断～治療までの完遂を目標に診療をしています。他医療機関との連携も強化しています。睡眠時無呼吸症候群の診断・治療、禁煙外来及び人間ドック・企業健診・住民検診などの予防医療にも力を注いでいます。

全職員の専門性を高めるための勉強会、患者様が安心して医療を受けることができる環境整備を行っています。また、併設の訪問看護ステーション「つくし」との連携で、より継続的で質の高い医療の提供が可能です。そして何より、患者様との対話を重視し、地域において信頼される病院を目指して参ります。

協会役員コーナー

温泉雑感



美祿市立美東病院

病院長 村上不二夫

最近年に数回、九州の温泉に入ることがあります。温泉はマグマが地下水を温めて、地層を通して地表に上がってきたものですが、泉源がいくつもあるところでは、通った地層によって、温泉の性質が大きく異なってきますから、数百メートル程度しか離れていない別の温泉では泉質が異なることが珍しくありません。だから一回でいろいろな温泉が楽しめることもあります。

入ってみていい湯と感じるのは個々人の勝手なのですが、夫婦でも一方がいい湯だと感じて、もう一方は「あっちのお湯の方が合っている」などと意見の不一致をみることも珍しくありません。万人にいい湯というのは中々ないようで、体質が異なるからでしょうか。ちなみにこの話は一般論でして、当方の内情を露わにしているというわけではないことをお断りしておきます。

薬でもいい薬だとある患者がいても、それが他の患者にいい薬だということはありません。あくまで服用する側の病状によって効きが異なってくるでしょう。

私は「どのヨーグルトがいいですか」と最近の腸内細菌ブームでこんな質問を受けた時に、「たくさん試してみても自分にあったものを探してください」と言うようにしています。お薬と一緒にデータが良くても、実際に経験してみると「思っていた以上」もあるかもしれませんし、「調子いい」が普通に期待されて、時に「何も変わりません」だったり、副作用に悩まされることにもなるかもしれません。

やはり実際に経験することが大変重要で、医療でも診療の現場というのはこの点からも一番大事だと思っています。とりとめのない話になってしまいましたが、改めて申しますと、私にとって温泉は忙しい日常の中で身体とお湯の対話をさせる貴重な時間になっています。

地域で共に、地域と共に生きること

社会医療法人
尾中病院

理事長 尾中 宇蘭

この原稿に向かっている時点で、お隣韓国は平昌における冬季オリンピックでは多くのわが国のアスリートが過去最高の活躍を遂げています。その中でも私が全国の病院関係者と共に熱い視線と応援を送る選手がいます。社会医療法人相澤病院に所属するスピードスケートの小平奈緒選手です。小平選手は平昌五輪において1000mで銀メダル、500mで金メダルを獲得するという快挙を成し遂げ、さらには韓国のイ・サンファ選手とのスポーツマンシップあふれる交流などでも話題となり、一躍時の人となっています。長野県出身の彼女は尊敬するコーチの下で学ぶために、実業団に所属せず信州大学に進学することを選択しました。卒業後も地元長野県内での活動を模索されていたようですが、なかなか支援する地元企業が見つからなかったときに、縁あって相澤病院が小平選手を支えることになったとのこと。初のメダルに輝いた女子カーリングのLS北見というチームも、五輪経験者である本橋選手が、「地元からの選手の流出を防ぎたい」、「地域に根差し、地元で愛され続けるクラブを作りたい」との思いから地元企業の支援を受けて作り上げたものだそうです。

少子高齢化が進むわが国では、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けていくことを支えるために地域包括ケアシステムが構築されつつあり、我々病院もその一翼を担っています。しかし一方で日本の多くの地方では、若者を中心とした労働人口が都市部へ流出することが問題になっています。高齢者のみならず、若者や子育て世代も可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けていくことを支えていくことが地域にとって必要になっています。小平選手を相澤病院が、LS北見を北見市の企業が支えたように、病院や企業が、それぞれの地域で少しでも貢献できることを増やしていくことが、本当の意味で地域で共に生きる、地域と共に生きるということに繋がるのではないかと思います。医療機関の利益率が減少し続ける現状では簡単に実現できることではありませんが、当院も医師会や行政と連携して常に模索を続けようと思います。

病院スタッフコーナー

目に見えない敵



医療法人聖比留会
厚南セントヒル病院
感染管理認定看護師

看護師長 竹本 美香

私が感染管理認定看護師を取得して5年が経ちました。さらなる活動の充実を目標に日々頑張っているところです。特に冬はインフルエンザやノロウイルスの流行する時期でもあり、感染管理認定看護師が一番力を発揮する季節でもあります。アウトブレイクの発生時には各部署に出向き、探偵のような推理を働かせ、様々なことを調査します。時には休日を返上しての活動もありますが、上司や病院スタッフ、家族の協力で今まで活動を続けることが出来たと感謝しています。

感染管理認定看護師は、院内のさまざまな職種と協働しながら、患者だけでなく家族や面会の方々、医療従事者全ての人を医療関連感染から守るための活動が求められます。

医療関連感染は私一人がいくら頑張っても、感染を予防することはできません。病院内で働く医療従事者が力を発揮してくれてこそ、全ての人を感染から守ることができます。医療従事者全員が感染に関する正しい知識や技術を取得できるように、楽しくまた参加したいと思える研修を企画し病院全体の知識の底上げが出来るように尽力しています。

今後とも多職種との協働を心がけ、感染対策の中心的役割を担うことが出来るように日々努力していきたいと思っています。

目に見えない『細菌』や『ウイルス』との闘いに終わりはありません。全ての人々を医療関連感染から守るため闘い続けます。

このひとときを大切に



医療法人社団青寿会
武久病院

事務部長 瓜生 達哉

「来週帰るき、餃子作っちゃっちゃらん（来週帰省するので、餃子を作って欲しい）」、「いいバイ、作っちゃこう」～母と筑豊弁でこんなやり取りをしたのは4年前のことだった。私の好物をリクエストしたのにはわけがある。もしかしたら、これが最後の“おふくろの味”になるかもしれないと危惧していたからだ。結果として、あの時食べた手作り餃子の写メが更新されず今も残っている。

現在80歳の母は、二度の圧迫骨折による入院も重なり、物忘れが加速、今は週2日デイサービスに通っている。食事は81歳の父が、朝と昼をこしらえ、夜は宅配弁当のお世話になっている。父は典型的な猛烈サラリーマンだったことから、子育ては専ら母任せ、苦勞を掛けた分、「今はその恩返しだ」と言って、献身的に母を支えている。

こうした状況を当院グループホーム職員に相談したところ、「お母さんの心配はお父さんがするから、瓜生さんはお父さんを支えてあげて」と助言を受けた。会話のキャッチボールも儘ならず、食事の用意もあり、ストレスも相当なものだろうと思っていたので、その言葉に納得、頭を切り替えることができた。今は毎月、食材と芋焼酎を携え、片道1時間JRに揺られ帰省している。

穏やかな表情を浮かべる母を挟んで、父と酒を酌み交わし語らう瞬間は、私にとってなによりの“ご馳走”だ。この先のことを考えると心配が尽きないのは当然だが、今はこのひとときをしっかりと胸に刻んでおきたい。

四県病院協会連絡協議会報告

第23回 四県病院協会連絡協議会

平成30年1月26日（金）、山口市の山口グランドホテルにおいて、岡山・広島・山口・福岡四県の第23回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は、山口県病院協会より木下会長他計17名が出席し、他県からの役員15名を合わせて、総勢32名が一堂に会した。

最初に各県病院協会の事業実施状況について説明があり、続いて各県が提出した議題等について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次のとおり。



協議会風景

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1) 各県病院協会の事業実施状況について | (各県資料交換・特記事項説明) |
| 2) 福岡県の災害医療体制 | (福岡県提案) |
| 3) 医師の働き方改革について | (岡山県提案) |
| 4) 「介護医療院への転換意向」調査について | (広島県提案) |
| 5) 理事長、院長に問う、医師の労働環境実態調査結果について | (山口県提案) |
| 6) その他 | |

医療経営講習会報告

平成29年度 冬季医療経営講習会

平成30年3月13日（火）山口グランドホテルにおいて、冬季医療経営講習会が開催され、123名の参加があった。

演題と講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「2018年の先を見据えて

～同時改定・計画改定後の目指す方向性～」

講師 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構

所長 西村 周三 氏



西村 周三氏

当協会では三度目の講演となる西村氏は、医療ビッグデータの集積と分析を行っておられる観点から、今後の医療・介護制度がどのように変化していくかを講演された。

「地域の中で」「生活の中で」といった言葉を繰り返し強調され、医療機関・病棟機能・職種を超えた連携がより重要となる印象であった。熱のこもった講演を受けて、参加者からも活発に質問があがった。



講習会風景

研修会報告

平成29年度 病院看護師長研修会

平成29年12月14日（木）山口県総合保健会館第一研修室において、病院看護師長研修会が開催され、122名の参加があった。

テーマと講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「再考！ 保健医療サービスにおける看護職が果たすべき役割」

講師 山口県立大学

教授 田中 マキ子 氏

テーマ 「人財を育成する師長のマネジメント」

講師 山口県済生会下関総合病院

看護部長 藤田 恵 氏



田中 マキ子氏



藤田 恵氏



研修会風景

田中氏は、看護師のチームとは、受けてきた教育の目的や人間的な素養・背景が異なる人材が混在する職能集団であると説明された。そのような集団を育て、看護ケアという結果を目指しながら自身も成長させる道筋を示された。

藤田氏の講演は人財育成の実践的な内容であり、相手の到達度・レベルに応じた関わりや導き方について、具体的に解説された。

組織における人財の育て方について、両氏の講演を通じ、深く掘り下げて学ぶ研修となった。



社会福祉法人恩賜財団済生会支部
山口県済生会下関総合病院
副看護師長 松田 直子

～病院看護師長研修会に参加して～

平成29年12月14日に病院看護師長研修会に参加し、講師の田中マキ子先生、藤田恵先生から「保健医療サービスにおける看護職が果たすべき役割」「人財を育成する師長のマネジメント」についての講義を受講させて頂きました。

これから迎える2025年問題に対応するためには、施設内医療と施設外医療の違いを理解し、経験のみならず、知識・技術に関する専門性に裏づけられた判断力と行動力を持った看護師が求められます。しかし、現在の基礎教育が追いついていないため、学生は社会人基礎力が未熟なまま新人看護師として入職するということでした。私たちは看護管理者として、そのような新人看護師の特徴を知り、育成してい

く必要性を学びました。

看護師個々の能力が看護サービスの質となり、患者満足度へ影響するため、人財育成はとても重要であることを再認識することができました。優れた人財育成をしていくためには、組織を構成している人材をよく知り、個人の能力や病院全体の人材を見極めたくて育成する必要があることを学びました。看護管理者はスタッフのことをよく知り、彼らが自分で成長しようとする環境を整えることが重要で、そのためには内発的・外発的モチベーションがバランスよく必要であることを学びました。

今回の研修でこれから求められる看護職の役割や、人財育成について学ぶことができました。目まぐるしく変化する時代に求められる看護職の役割を果たすことができるよう研修で学んだことを活かしていきたいと思えます。

研修会報告

平成29年度 病院看護部長研修会

平成30年1月30日（火）山口グランドホテルにおいて、病院看護部長研修会が開催され、63名の参加があった。

これまで山口県病院協会では、看護職対象の研修会は中堅看護師研修会と看護師長研修会を行ってきたが、新たに看護部長研修会も実施することとなった。山口県看護協会から西生会長も出席され、研修に先立って挨拶された。

テーマと講師は以下のとおり。



山口県看護協会 西生会長



高橋 陽子氏



研修会風景

【研修会】

テーマ 「これからの看護管理 ～看護現場の変革～」

講師 公益財団法人 脳血管研究所

美原記念病院

看護部長 高橋 陽子 氏

講師の高橋氏は平成16年から看護部長を務めておられ、看護管理をつきつめてこられた経験から、変革の時代に看護部長として何をすべきか、語られた。

高橋氏は、ピンチの時こそ既存の枠組みの問題点を組織全体に認識させ、新たな仕組み・風土を作るチャンスであると繰り返し話された。また、看護師育成は成人教育である点に留意する必要性についても、度々強調された。

多職種間や地域間での連携にも早くから取り組んでこられた実践例を数々紹介しながら参加者とやりとりを交える、たいへん活発な講演となった。



社会福祉法人恩賜財団済生会支部
山口県済生会山口総合病院
看護部長兼院長補佐

江藤 京子

～病院看護部長研修会に参加して～

高橋陽子先生のご講演は、とてもポジティブで、今までの実践を通じた内容であり、今後の看護部長としての示唆に富んだものでした。

189床の脳神経疾患専門病院（急性期～回復期・障害者）の看護部長として、2007年に発表された国際看護協会による「素晴らしい看護実践環境：質の高い職場環境は質の高い看護ケアにつながる」という報告書に大きな影響を受け、マネジメントを行ってこられました。質の高い職場環境への取り組みは ①看護の専門性を発揮できる環境 ②人材育成につながる環境 ③仕事と子育てが両立できる環境 ④地域における看護連携の強化につながる環境という4つの職場環境を整備することでした。具体的には、病棟に専門職を専属配置し本来業務を全うする環境づくり、

リソースナース室（専門認定看護師の専従配置）の設置、経験学習や臨地実習の受け入れ、院内保育園、夜勤免除（未就学児のいる看護師）、男性看護師の育休取得、地域の間管理者研修等、実に多彩な実践内容でした。

2018年度は、診療報酬・介護報酬同時改定となりますが、「ピンチはチャンス」ととらえ、質の高い看護ケアを提供するために、自施設の組織変革に向けた魅力あるビジョンをつくりだし、可視化してメッセージを伝え続けること、看護の専門性が発揮できる環境づくりに向けて、多職種との協働を強化していき看護部長として、主導的役割を果たしていきたいと思っております。

諸会議報告

平成29年度 第5回理事会

日時 平成30年1月16日（火）17：00～18：00

開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. 「第26回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（山口大会）」後援名義の使用について
2. 「子育て支援フォーラム in 山口」に対する後援名義について
3. 「災害拠点病院向けBCPワークショップ」の開催に係る後援名義の使用について
4. 平成29年度病院医療事務担当職員研修会について
5. 平成30年度定時総会特別講演について
6. 平成30年度夏季医療経営講習会について

【協議事項】

1. 第23回四県病院協会連絡協議会の議題等について

【報告事項】

1. 第13回医療関係団体新年互礼会について
2. 県医師会役員との懇談会の開催について
3. 山口銀行との金融懇談会の開催について
4. 県行政委員等の推薦について
 - ・健康やまぐち21推進協議会委員
常任理事 馬場 良和（新任）
5. 県各種委員会等の結果報告について

木下会長

- ・山口県医療対策協議会（11月15日）
- ・山口県医療審議会（11月20日）

三浦副会長

- ・山口県社会福祉審議会（11月24日）
- ・県民の健康と医療を考える会（12月19日）

水田副会長

- ・山口県医療費適正化推進協議会（12月21日）

神徳常任理事

- ・山口県在宅医療推進協議会（11月30日）
- ・山口県専門医制度協議会（12月15日）

玉木常任理事

- ・山口県看護職員確保対策協議会（11月16日）

名西理事

- ・山口県がん対策協議会（11月15日）

平成29年度 第1回総務委員会

日時 平成30年1月23日（火）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 叙勲・褒章受章候補者について
2. 平成30年度県選奨受賞候補者の選定について
3. 平成30年度県知事表彰（看護職員）推薦について
4. 平成30年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
5. 平成30年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）及び記念品について
6. 平成30年度山口県病院協会事業計画（案）について

平成29年度 第4回情報管理委員会

日時 平成30年3月23日（金）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について
3. その他

事務長部会コーナー

平成29年度 山口県病院協会事務長部会 第2回研修会報告

平成30年2月23日（金）、山口グランドホテルにおいて平成29年度山口県病院協会事務長部会第2回研修会が開催され、170名の参加があった。

また、研修会後の意見交換会にも46名が出席し、活発な交流が行われた。

テーマ・講師は以下のとおり。

【制度説明】

「施設基準と適時調査について」

厚生労働省 中国四国厚生局山口事務所

審査課長 岩本 正樹 氏

【研修会】

テーマ 「平成30年度医療・介護同時改定 ～入院医療を中心に～」

講師 株式会社セイエル

医薬営業本部

営業支援担当部長 谷野 美智雄 氏



谷野 美智雄氏



研修会風景

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

開催支部と研修会等テーマは次の通り

【下関支部】

- 開催日 平成30年2月7日（水）
 場所 下関看護リハビリテーション学校
 協議 1. 無期転換ルールへの対応
 2. 家族手当について
 3. 外国人労働者の受入れ状況
 4. 診療報酬改定情報等
 報告 1. 適時調査について
 2. 医師の労働環境実態調査について



下関支部

【山口・防府支部】

- 開催日 平成30年2月21日（水）
 場所 山口県立総合医療センター
 研修会 テーマ 「県央デルタネット（山口・防府圏域地域医療介護連携情報活用システム）について」
 講師 三田尻病院
 用度課長 藤倉 岳司 氏
 山口県立総合医療センター
 企画調整室長 中村 敦 氏
 総会 1. 役員紹介
 2. 平成29年度事業報告
 3. 平成30年度事業計画



山口・防府支部

【長門・萩支部】

- 開催日 平成30年3月2日（金）
 場所 長門市応急診療所
 研修会 テーマ 「2018年度診療報酬改定 ～2025年にむけての分水嶺～」
 講師 株式会社セイエル 医薬営業本部
 営業支援担当部長 谷野 美智雄 氏
 協議 情報交換ほか



長門・萩支部

【岩国・柳井支部】

- 開催日 平成30年3月23日（金）
 場所 柳井クルーズホテル
 議題 ・診療報酬・介護報酬改定に関する意見交換
 ・その他



岩国・柳井支部

【宇部・山陽小野田・美祿支部】

- 開催日 平成30年3月23日（金）
 場所 尾中病院
 研修会 テーマ 「災害時のBCP対策「震災時における診療の業務の継続」」
 講師 SONPOリスクアマネジメント株式会社
 医療リスクマネジメント事業部
 主任コンサルタント 北本 渉 氏



宇部・山陽小野田・美祿支部

【周南支部】

- 開催日 平成30年3月26日（月）
 場所 ホテルサンルート徳山
 研修会 テーマ 「平成30年度診療報酬改定について」
 講師 株式会社セイエル 医薬営業本部
 営業支援担当部長 谷野 美智雄 氏



周南支部

協議・報告

お知らせコーナー

山口県医師会との懇談会

平成30年3月9日（金）、山口市湯田温泉「松田屋ホテル」において、山口県医師会との懇談会が開催されました。

山口県医師会からは河村会長他計5名が出席、山口県病院協会からは木下会長他計5名が出席し、県内の医療環境等について意見交換を行いました。

正・副会長、顧問会議

平成30年3月16日（金）、山口市湯田温泉「古稀庵」において、定例の山口県病院協会正・副会長、顧問会議が開催されました。木下会長、三浦副会長、水田副会長、江里顧問、貞國顧問、小田顧問と事務局長の計7名が出席し、来年度の事業計画などについて協議を行いました。

会員等の異動

会員の変更

・山崎病院 理事長 諸富 夏子 （変更前 理事長 山崎 武伍）

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局までお知らせください。

なお、変更届の様式は協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）より印刷することができます。

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|--------|-------------|------------------|
| ○4月3日 | 金融懇談会 | （会場：割烹鄙の館） |
| ○5月18日 | 第1回理事会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○5月25日 | 山口県病院協会定時総会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○6月6日 | 初級職員研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○6月15日 | 第1回情報管理委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○6月中旬 | 医療懇話会 | （会場：未定） |
| ○6～7月 | 第1回事務長部会研修会 | （会場：未定） |

編集後記

会報4月号をおとどけします。◆今号の病院紹介は岩国みなみ病院です。平成28年8月県東部を襲った豪雨災害で信じられないような水害に遭い病棟が使えなくなりましたが、29年4月から一部病棟再開されています。復活を祈っています。◆30年度診療報酬改定では、国の病床削減の方針で多くの病院にとって影響のある改定が行われました。◆急性期病院では在宅復帰率の見直しで名称も「在宅復帰・病床機能連携率」となり転院先の縛りがなくなりましたが、地域の一般病院との病診連携は考慮されませんでした。◆介護療養病床の廃止に伴い、新しく介護保険適応の医療施設として「介護医療院」が創設されました。「日常的な医学管理」や「看取り・ターミナル機能」と「生活施設」としての機能を併せ持つ施設とのことです。◆現場ではこの施設が介護療養病床や老人保健施設とどう違うのか、まだ十分な検証は出来ていませんが、国の意気込みは見え、一部の医療療養病床や一般病院までも転換させてしまいそうな期間限定の優遇措置もあります。◆甘い餌と解っていても、いつか梯子を外されると解っていても、食べねば死んでしまうので食いつかざるを得ない政策のようです。◆数年先にはあちこちに介護医療院だらけになりそうです。（吉岡春紀）